

第3回野口英世アフリカ賞受賞者の決定

平成31年4月25日
内閣府

日本国政府は、第3回野口英世アフリカ賞をジャン＝ジャック・ムエンベ＝タムフム博士(コンゴ民主共和国)とフランシス・ジャーバス・オマスワ博士(ウガンダ)に授与することを決定した。

医学研究分野

ジャン＝ジャック・ムエンベ＝タムフム

(Jean-Jacques Muyembe-Tamfum)

(コンゴ民主共和国)

1942年コンゴ民主共和国(DRC)生まれ。

ロバニウム大学(現キンシャサ大学)で学士号(医学)、ルーバンカトリック大学(ベルギー)Rega 医学研究所で博士号(医学/ウイルス学)取得。

現在、国立生物医学研究所(INRB)所長・キンシャサ大学医学部医学微生物学/ウイルス学教授。



第3回野口英世アフリカ賞(医学研究分野)受賞者のムエンベ＝タムフム博士は、エボラウイルス病等の研究及び疾病対策の人材育成において多大な貢献をした。

ジャン＝ジャック・ムエンベ＝タムフム博士は、コンゴ民主共和国において50年以上にわたり、研究及び人材育成に傑出した勇氣と知性、科学的厳密さを発揮してきた。とりわけ1976年、博士は、自国に未知の病気が存在することを確認し、危険な状況下で血液と組織サンプルを採集しベルギーの熱帯医学研究所に送り、エボラウイルスが発見されるに至った。この年以來、博士はエボラ研究の最前線に立ち、院内感染および埋葬習慣が感染の主要原因であることを明らかにし、ワクチンの研究に貢献し、抗血清療法を開発した。さらに、博士は、新しい世代の疾病対応の人材及びコンゴ人の実験科学者を育成してきた。

<業績概要>

ムエンベ＝タムフム博士は、1976年に最初のエボラウイルス病(EVD)(初期にはエボラ出血熱と呼ばれた)が発生したDRC北部のヤンブク村に派遣され、本病に対する警戒注意を喚起したアフリカ出身の科学者である。それ以來、彼はEVDの制圧対策を指揮する専門家として活動してきた。彼は1995年にEVD対策国際科学委員会の委員長に任命され、病院記録の点検や生存者との面談など、本病の発生と流行に関する広範な調査研究を展開した。その結果、彼はDRCのキクウィトでのEVD流行は院内感染が原因であることを突き止めた。彼の指導の下で、EVD対策として隔離病棟への患者の隔離、医療従事者や患者の家族への個人用防護具の配付、衛生教育資料の配付、経験を積んだチームによる死亡者の適切な埋葬が実施され、これらの措置が有効であることが証明された。また、彼はエボラウイルスの伝播について、社会文化的見地から解析した。その結果、従来の埋葬習慣が、

コミュニティにおける本病伝播の主な原因であることを明らかにした。その後、彼は現地コミュニティのリーダーに、本病がどのように伝播するかを説明し、患者の家族に手袋や防護具を提供した。彼のリーダーシップの下で導入された対策により、DRC における本病の流行は 3 か月で封じ込められ、前述の対策が有効であることが証明された。この実績により、彼は世界保健機関(WHO)のコンサルタントに任命され、他国の EVD とマールブルグウイルス病の対策をも支援している。

ムエンベ＝タムフム博士の科学的貢献は、EVD のみならず、幅広い感染症に及んでいる。DRC は長きにわたり政情不安とインフラ不足に悩まされてきた。このように特殊な状況下で、INRB に対する政府及び外部からの財政的支援は不十分であった。しかし、彼は INRB の所長として、さまざまな分野で INRB の活動の拡充に全力を尽くした。彼はポリオ、麻疹、黄熱病などのワクチンで予防可能な感染症、人獣共通感染症であるサル痘やウイルス性出血熱、急性呼吸器感染症であるインフルエンザ、並びに結核や腸内細菌の抗菌薬に対する耐性に関する研究調査基盤を築いた。彼は、アフリカにおける感染症研究分野での偉大な功績と貢献に対し、2015 年にフランス学士院からクリストフ・メリュエ賞を授与された。

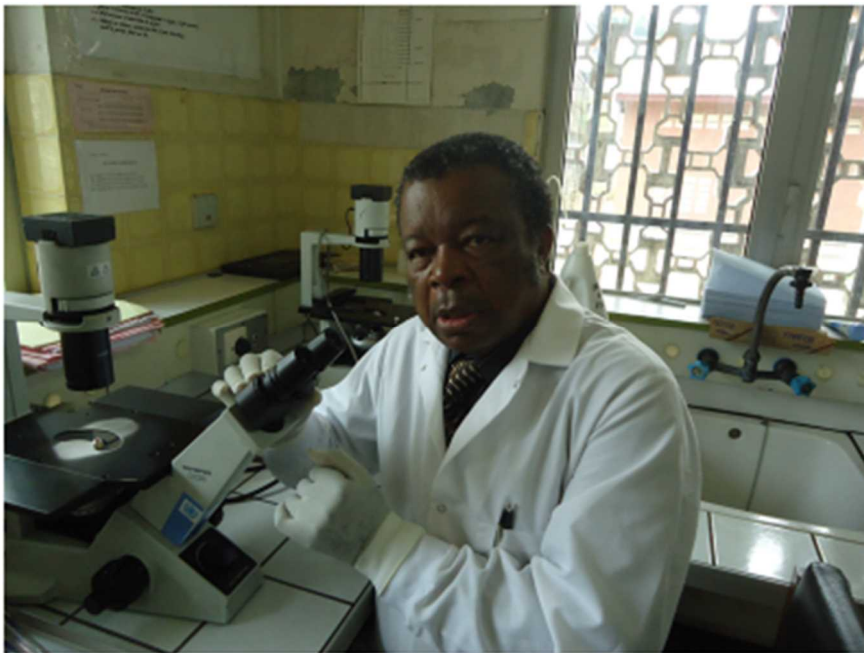
ムエンベ＝タムフム博士は教育においても多大な貢献をしている。彼は 40 年以上にわたって DRC のキンシャサ大学医学部で教鞭をとり、また、1998 年からは生物医学研究者を育成する機関である INRB の所長として、若い研究者を 1000 人以上育成してきた。彼が育成した研究者達は、現在世界中で感染症コントロールにおいて重要な役割を果たしている。また、彼は、DRC のキンシャサ大学公衆衛生学部(l' Ecole de santé publique de Kinshasa: ESPK)の設立にも貢献した。

ムエンベ＝タムフム博士は、フランスビル国際医学研究センター(ガボン)、国立感染症研究所(南アフリカ)、ザンビア大学獣医学部(ザンビア)、野口記念医学研究所(ガーナ)、アントワープ熱帯医学研究所(ベルギー)、モンペリエ大学開発研究所(フランス)、ロベルト・コッホ研究所(ドイツ)、米国疾病管理予防センター(CDC)(米国)、国立衛生研究所(米国)、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、カナダ公衆衛生庁(カナダ)、また国立感染症研究所、北海道大学、長崎大学、国立国際医療研究センターを含む日本の研究機関など、アフリカ以外の地域との国際的なネットワーク及びパートナーシップを構築・確立した。



キクワイトで 1995 年に発生したエボラの突発的流行を生き延びた生存者(女性)とムエンベ

=タムフム博士



研究室で働くムエンベ=タムフム博士



現場で同僚と仕事をするムエンベ=タムフム博士

医療活動分野

フランシス・ジャーバス・オマスワ

(Francis Gervase Omaswa) (ウガンダ)

1943年ウガンダ生まれ。

東アフリカ大学マケレレ医学校にて学士号(医学)、マケレレ大学にて修士号(外科)取得。

現在、グローバルヘルスと社会変革のためのアフリカセンター(ACHEST)所長。

第3回野口英世アフリカ賞(医療活動分野)受賞者のオマスワ博士は、保健従事者の教育、研修、定着及び移住を含む世界の保健人材(HWF)危機への対処、また、アフリカはじめ世界での人材重視の保健及び医療制度の構築において多大な貢献をした。



フランシス・ジャーバス・オマスワ博士は、ロンドンでの心臓外科医の職を辞してケニア、後にウガンダに戻り、故郷アフリカで臨床・外科の能力開発を行った。以来30年以上にわたり、保健人材の支援、育成及びその効率的な活用のための国際的システムの開発において世界的なリーダーとなった。特に、アフリカ大陸における活動を通じて、第1回保健人材グローバルフォーラムの企画と開催を主導し、保健人材開発に関するWHOカンパラ宣言及び今やグローバル対応の指針となっている世界行動計画の実現に道筋をつけた。博士は、世界ストップ結核パートナーシップ(Global Stop TB Partnership)、世界エイズ・結核・マラリア対策基金(Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria)、ワクチンと予防接種のための世界同盟(GAVI)の独立審査委員会の役員として、またグローバルヘルス保健人材アライアンス(Global Health Workforce Alliance)の創設者兼事務局長として、国際舞台に英知をもたらした。

今日、博士は、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の「すべての人に健康と福祉を」の目標実現に向け、保健システムの構築と人材育成に取り組んでいる。

<授賞業績>

オマスワ博士の貢献は、アフリカに根差しつつ、諸大陸にまたがって世界に多大な影響を与えた。母国ウガンダのマケレレ大学医学部卒業生であり、心臓外科医が本職である博士は、英国エジンバラ王立外科医師会の会員になったにもかかわらず、10年を経ずして、故郷に奉仕しアフリカにおける指導者育成を支援するために故郷に戻った。博士は、麻酔医である妻のキャサリン・オマスワ博士とともに、ケニアにおいて心臓切開手術で世界的レベルの成果を挙げた後、無私と貧困救済の精神から、農村人口に費用対効果の高い高品質の医療を提供する方法を実践するためにウガンダ僻地の農村部にあるンゴラ病院に家族を伴って5年間奉職した。この経験から得た教訓は、人材育成中心の医療に取り組むという博士の決意を研ぎ澄まし、その一部はこの地域で活かされている。この経験をもとに、博士は、東・中央及び南アフリカ外科大学(COSECESA)を設立し、創立者兼学長として、各国の首都以外の地域における専門家を養成した。同大学は、現在、アフリカ最大の外科専門大学になっている。

博士はその後、カンパラにあるマケレレ大学に戻り、ウガンダ心臓研究所を設立した。また、博士は、エイズとの闘いが重要な時期を迎える中で、ウガンダ保健省の保健局長を務めた。これは、ウガンダがエイズ支援機構(TASO)や共同臨床研究センター(JCRC)など先進的な取り組みをする機関を擁することで知られ、予防と治療の両先端分野をリードしていた時期であった。さらに、それほど知られていないが、博士のさらに重要な業績は、博士が保健局長として主導した、地方分権、地域保健チーム、利用料の廃止、及び保健セクター全体のアプローチに関する改革を強化するために築いた先駆的なシステムである。オマスワ博士は、米国が大統領エイズ救済緊急計画(PEPFAR)を立ち上げた時期に、保健セクターのドナー・コーディネーターを務め、ウガンダが最大の被供与国となった。また、博士は、新しく設立された世界エイズ・結核・マalaria対策基金のポートフォリオ・調達委員会の委員長、及び GAVI の独立審査委員会の委員長も務めた。この時期、ウガンダは、ムセベニ大統領の指導力のもと、HIV 感染の有病率が3分の1に削減され、他の多くの国々のロール・モデルとなった。また、5歳未満児の死亡率も半減し、今もなお下がり続けている。そして、博士が開発を支えた強力な一次医療制度(primary health system)により、エボラ、さらに最近ではマールブルク・ウイルスによる出血熱の突発的流行の発生件数、規模及び被害が減っている。

実際に、感染症の大流行の最前線で戦ってきたウガンダに蓄積された専門的な知識と深い経験は、2014年と2015年に西アフリカを襲ったエボラ危機への対応を支援するため、ウガンダから行われた要員の動員に顕著に現れた。保健事業におけるオマスワ博士のこれらの業績は、主に教育者、指導者、同僚として、いずこにおいても相手に宿る指導力を開花させる友人としての稀有の能力によるものである。

オマスワ博士の情熱の大半は、博士の故郷アフリカに向けられているとはいえ、アフリカひいては世界の人々の健康増進に向けた博士のリーダーシップは、世界の健康分野の様々な前線に及んでいる。博士は、多大な成功を収めた世界ストップ結核(STB)パートナーシップの発展に貢献した重要な推進者の一人であり、2001年にはSTB調整委員会の創設委員会の委員長に選出された。また、世界エイズ・結核・マalaria対策基金(GFATM)の計画者の一人であり、そのポートフォリオ管理・調達委員会の委員長を務めた。オマスワ博士は、HIV/AIDS 及び関連感染症対策に関するアブジャ宣言の起草に貢献した。同宣言は、従来の援助国支援に対する依存から脱し、自国内のリソースを活用する方向に向かわせるという国際開発援助の将来を予見させる先見の明のある政策宣言であった。このため、アフリカ連合では、博士を、アフリカ諸国政府のモニタリング・ガイドラインを作成するコンサルタントの一人に、またアフリカ連合の対 HIV 戦略を策定する首席コンサルタントに任命した。

2005年には、イ・ジョンウク WHO 事務局長が、オマスワ博士を、特に保健人材に焦点を当てた特別顧問として WHO に招いた。オマスワ博士は、保健人材(HRH)に関する2006年世界保健報告書の作成と並行して、自ら創設事務局長を務めた世界保健人材連盟(GHWA)の創設へと至る取組に関する協議と戦略計画の策定を調整した。博士は、この役割の一環として、2008年3月に第1回保健人材グローバルフォーラムをカンパラで開催した。アフリカでは、保健従事者の深刻な不足に悩まされる国々が半数以上を占めるため、オマスワ博士は、保健システムにとって不可欠な人材要素に関する世界的アジェンダを推進する上で、

比類なき経験と貢献をもたらした。博士は、カンパラ宣言と共に、現在では国際社会が保健人材をめぐる世界的危機に対応する指針となっている世界行動計画を起草し、その採択に向けてフォーラムを導いた。博士は不退転の決意で臨んだ。保健人材(HRH)は、2008年のG8北海道洞爺湖サミットで確認されたように、グローバルヘルスに対する我々の取組を見直す上で最先端の課題であり、ヘルスシステムの中で優先順位を高め、その成果を可視化し人材につなげるべき課題であった。この新たな関心は、全ての人々に適切な保健サービスへのアクセスを保障するための保健融資や情報システムについても注意を向けさせることとなり、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)に向けた政策運動を成功に導く基盤となった。この世界規模の運動の主導者たちは、多大な成果を収めたこの課題に対しオマスワ博士が根本的に貢献したと証言している。

オマスワ博士は、ジュネーブからアフリカに戻ったが、アフリカにおいて一人でも多くの命を救える間は引退など考えないという。博士は、ウガンダ・ブシテマ大学の学長に就任し、ロックフェラー財団の支援を受け、グローバルヘルスと社会変革のためのアフリカセンター(African Center for Global Health and Social Transformation: ACHEST)を創設し主導してきた。ACHESTは、保健システム強化に必須とされる能力構築と政策指針のための地域の基盤として、また、世界THINK SDGsプロジェクトのアフリカにおけるハブとして、さらに閣僚のリーダーシップ能力を支援するためにアフリカの30を超える機関が集まるアフリカ保健システム・ガバナンス・ネットワーク(African Health Systems Governance Network)の事務局兼主宰する役割を担っている。オマスワ博士の作成した『保健大臣ハンドブック』は、新任の大臣の必読書であり、政策決定のための優れた情報源となっている。初志貫徹のため、博士は、引き続きアフリカ保健人材プラットフォーム(African Platform for HRH: APhRH)の事務局長兼議長を務めている。このAPHRHは、世界保健機関(WHO)総会による保健医療人材の国際採用に関するWHO世界実施規範の採択とその後の説明責任報告書の作成に貢献した。

また、ACHESTは、医学教育パートナーシップ・イニシアチブ(Medical Education Partnership Initiative: MEPI)のアフリカ調整センターも担い、12か国の13の医学部に技術支援を行い、その結果、アフリカにおいて、医学教育の質の向上と訓練を受けた医師数の増加に貢献した。博士は、MEPIと看護教育パートナーシップ・イニシアチブ(Nursing Education Partnership Initiative: NEPI)をさらに発展させ、2017年にはアフリカ保健研究フォーラム(African Forum for Research in Health: AFREHealth)の創設へと導いた。ACHESTは、オランダ政府により資金が提供されている保健システム啓発パートナーシップ(Health Systems Advocacy Partnership)に基づき、ケニア、マラウイ、ウガンダ、タンザニア及びザンビアにおける保健システム・ガバナンス及び保健人材を支援している。



ウガンダ・カンパラで開催された第 1 回保健人材グローバルフォーラムにて、リンカーン・チエン世界保健人材連盟(GHWA)理事長とともに(2008 年 3 月)。
オマスワ博士が招集した同フォーラムに各国・機関代表 1,500 名が出席した。



ケニア・ナイロビで創設された AFREHealth にて、Marietjie De Villiers 代表、Abigail Kazembe 副代表とともに(2017 年 8 月)



日本国際交流センター(JCIE)グローバルヘルス国際諮問グループとともに(オマスワ博士は右から4人目。2018年、東京)



ンゴラ病院スタッフとともに患者を診察中(2019年4月)

ジャン=ジャック・ムエンベ=タムフム博士略歴

[生年月日]

1942 年 3 月 17 日(コンゴ民主共和国(DRC)生まれ)

[学歴・職歴]

1969 年	ロバニウム大学(現キンシャサ大学) (DRC)にて学士号(医学)取得
1973 年	ルーバンカトリック大学(ベルギー) Rega 医学研究所にて博士号(医学/ウイルス学)取得
1974 年-現在	キンシャサ大学(DRC)医学部微生物学教授(1978 年から正教授)
1976 年	赤道州(DRC北西部)ヤンブク村に発生した(後にエボラとして知られる)謎の病気の調査
1976-1981 年	キンシャサ大学医学部長
1980-1986 年	天然痘撲滅(1980 年)後、サンクル地区におけるヒト・サル痘(human monkeypox/MPX)に関する国家/WHO 監視システム(1978-1986 年)に加わった。 アン・リモイン准教授(UCLA)と DRC における MPX 監視研究の共同研究責任者、米フォート・デトリック基地内アメリカ陸軍伝染病医学研究所(USAMRIID)との MPX 共同研究「DRC における MPX の臨床症状」の共同研究責任者。
1981 年	研究休暇を活かし、ダカール・パスツール研究所(Digoutteij 博士)におけるアルボウイルスの研究(3 か月)、及びアメリカ疾病予防管理センター(CDC)(アトランタ)(J. B. McCormick 博士)におけるエボラウイルス研究(3 か月)
1984-1986 年	キンシャサ大学(DRC)医学部長
1985 年、1996 年	中央アフリカ共和国・バンギで開催されたアフリカの AIDS の定義に関する WHO ワークショップの副議長(1985 年)を務めたほか、WHO ミッション期間中(1996 年)にウガンダ・カンパラにおける HIV/AIDS の驚くべき有病率の最初の評価を行った。
1995 年	DRC・バンドゥンドゥ州キクウイトにおけるエボラウイルスによる都市部における初めての出血熱の突発的流行の発見及び感染対策
1996 年	WHO ミッション: ガボン・メイボー村におけるエボラの突発的流行における感染対策実施
1996 年、2001 年	コンゴ共和国メイボー 2(1996 年)、メカンボ(2001 年)(ガボン)、ムボモ(2001 年)におけるエボラウイルスによる出血熱の突発的流行に対する国際闘争委員会(WHO 後援)委員長
1997 年	WHO ミッション: タンガニーカ湖周辺諸国(DRC、ウガンダ、ルワンダ、ブルンジ、タンザニア)の検査施設の評価(コレラ、赤痢、髄膜炎の流行検知能力)
1998 年-現在	DRC 国立生物医学研究所(INRB)所長
1998 年	WHO ミッション: ケニア・ガリッサ及びワジールにおけるリフトバレー熱流行調査

1999年	WHO ミッション(国際科学技術委員会委員長として): DRC・Durba/Watsa におけるマールブルグウイルスの突発的流行対策
1999-2000年	DRC 東部州 Watsa/Durba におけるマールブルグウイルスによる出血熱の突発的流行に対する国際対策委員会(WHO 後援)委員長
2000年	WHO ミッション:ブルキナファソ・ワガドゥグ多疾患サーベイランスセンター評価
2001年	WHO ミッション:セネガル・WHO アフリカ地域事務所ポリオ研究所(ダカール・パスツール研究所内)のモニタリング
2001年	WHO ミッション:コートジボワール・WHO アフリカ地域事務所ポリオ研究所(アビジャン・パスツール研究所内)モニタリング実施
2007年	世銀グループ短期コンサルタント(マダガスカル国家統合行動計画(2008年2月)の策定に向けた鳥インフルエンザ及びヒトインフルエンザの迅速な評価のためのFAO/世銀/OIE/WHO/IBAR 合同ミッション)
2007-2014年	ムウェカ(2007-2008年)、イシロ(2012年)、ボエンデ(2014年)におけるエボラウイルスによる出血熱の突発的流行に対する国際対策委員会(WHO 後援)委員長
2018-2019年	DRC 北キヴ州及びイトゥリ州における Merck rVSV-Zebov-GP ワクチンを用いたリングワクチン接種研究の主任研究者。

[主な受賞と栄誉]

1996年	Chevalier de l'Ordre National de Léopard 勲章、1996年(ザイール(現DRC))
2001年	国際ロータリー・ポール・ハリス国際フェロー賞
2004年	科学、芸術、文学における高い業績に対する国家金賞
2015年	第7回フィロウイルス国際シンポジウム(ワシントン)特別功労賞
2015年	クリストフ・メリュエ賞(パリ)
2015年	英国王立協会ファイザー賞(ロンドン)
2017年	ルブンバシ大学(DRC)名誉博士
2017年	米国熱帯医学学会(ASTMH)名誉国際会員
2018年	エボラウイルス糖タンパク質に対する中和抗体及びその使用に関する米国特許第10,160,795号(2018年12月25日発行)
2019年(5月)	アントワープ大学(ベルギー)名誉博士

[主な論文]

1. Gilchuk P, Kuzmina N, Ilinykh PA, Huang K, Gunn BM, Bryan A, Davidson E, Doranz BJ, Turner HL, Fusco ML, Bramble MS, Hoff NA, Binshtein E, Kose N, Flyak AI, Flinko R, Orlandi C, Carnahan R, Parrish EH, Sevy AM, Bombardi RG, Singh PK, Mukadi P, Muyembe-Tamfum JJ, Ohi MD, Sapphire EO, Lewis GK, Alter G, Ward AB, Rimoin AW, Bukreyev A, Crowe JE Jr. Multifunctional

- Pan-ebolavirus Antibody Recognizes a Site of Broad Vulnerability on the Ebolavirus Glycoprotein. *Immunity*, 2018 Aug 21; 49(2): 363–374.
2. Misasi J, Gilman MS, Kanekiyo M, Gui M, Cagigi A, Mulangu S, Corti D, Ledgerwood JE, Lanzavecchia A, Cunningham J, Muyembe-Tamfun JJ, Baxa U, Graham BS, Xiang Y, Sullivan NJ, McLellan JS: Structural and molecular basis for Ebola virus neutralization by protective human antibodies. *Science*. 2016 Mar 18; 351(6279): 1343–6.
 3. Corti D, Misasi J, Mulangu S, Stanley DA, Kanekiyo M, Wollen S, Ploquin A, Doria-Rose NA, Staube RP, Bailey M, Shi W, Choe M, Marcus H, Thompson EA, Cagigi A, Silacci C, Fernandez-Rodriguez B, Perez L, Sallusto F, Vanzetta F, Agatic G, Cameroni E, Kialu N, Gordon I, Ledgerwood JE, Mascola JR, Graham BS, Muyembe-Tamfun JJ, Trefry JC, Lanzavecchia A, Sullivan NJ: Protective monotherapy against lethal Ebola virus infection by a potentially neutralizing antibody. *Science*. 2016 Mar 18; 351(6279): 1339–42.
 4. Rimoin AW1, Mulembakani PM, Johnston SC, Lloyd Smith JO, Kialu NK, Kinkela TL, Blumberg S, Thomassen HA, Pike BL, Fair JN, Wolfe ND, Shongo RL, Graham BS, Formenty P, Okitolonda E, Hensley LE, Meyer H, Wright LL, Muyembe JJ: Major increase in human monkey pox incidence 30 years after smallpox vaccination campaigns cease in the Democratic Republic of Congo. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 2010 Sep 14; 107(37): 16262–7.
 5. Bausch DG, Nichol ST, Muyembe-Tamfun JJ, Borchert M, Rollin PE, Sleurs H, Campbell P, Tshioko FK, Roth C, Colebunders R, Pirard P, Mardel S, Olinda LA, Zeller H, Tshomba A, Kulidri A, Libande ML, Mulangu S, Formenty P, Grein T, Leirs H, Braack L, Ksiazek T, Zaki S, Bowen MD, Smit SB, Leman PA, Burt FJ, Kemp A, Swanepoel R; International Scientific and Technical Committee for Marburg Hemorrhagic Fever Control in the Democratic Republic of the Congo: Marburg hemorrhagic fever associated with multiple genetic lineages of virus. *N Engl J Med*. 2006 Aug 31; 355(9): 909–19.
 6. Anne Rimoin, Neville Kialu, B. Kebela Ilunga, T. Mukala, Linda L. Wright, P. Formenty, Nathan D. Wolfe, R. Lushima Shongo, F. Tshioko, E. Okitolonda, JJ. Muyembe, Robert W. Ryder, and Herman Meyer: Endemic Human Monkeypox, Democratic Republic of Congo, 2001–2004: *Emerging Infectious Diseases*, Vol 13(6)
 7. J.J. Muyembe-Tamfun, Mulembakani P, Lekie RB, Szczeniowski M, Jezek Z, Doshi R, Hoff N, and Rimoin AW. Smallpox and its eradication in Democratic Republic of Congo, lessons learned. *Vaccine* (2011), doi:10.1016/J.vaccine.2011.19.048.
 8. Mupapa K, Massamba M, Kibadi K, Kuvula K, Bwaka A, Kipasa M, Colebunders R, Muyembe-Tamfun JJ. Treatment of Ebola hemorrhagic fever with blood transfusions from convalescent patients. *International Scientific and Technical Committee. J Infect Dis*. 1999 Feb;179 Suppl 1: S18–23. PubMed PMID: 9988160.
 9. Jezek Z, Szczeniowski MY, Muyembe-Tamfun JJ, McCormick JB, Heymann DL. Ebola between outbreaks: intensified Ebola hemorrhagic fever surveillance in the Democratic Republic of the Congo, 1981–1985. *J Infect Dis*. 1999 Feb;179 Suppl 1: S60–4. PubMed PMID: 9988166.
 10. Khan AS, Tshioko FK, Heymann DL, Le Guenno B, Nabeth P, Kerstiens B, Fleerackers Y, Kilmarx PH, Rodier GR, Nkuku O, Rollin PE, Sanchez A, Zaki SR, Swanepoel R, Tomori O, Nichol ST, Peters CJ, Muyembe-Tamfun JJ, Ksiazek TG. The reemergence of Ebola hemorrhagic fever, Democratic Republic of the Congo, 1995. *Commission de Lutte contre les Epidémies à*

- Kikwit. *J Infect Dis.* 1999 Feb;179 Suppl 1:S76–86. PubMed PMID: 9988168.
11. Muyembe–Tamfum JJ, Kipasa M, Kiyungu C, Colebunders R. Ebola outbreak in Kikwit, Democratic Republic of the Congo: discovery and control measures. *J Infect Dis.* 1999 Feb;179 Suppl 1: S259–62. PubMed PMID: 9988192.
 12. Heymann DL, Barakamfitiye D, Szczeniowski M, Muyembe–Tamfum JJ, Bele O, Rodier G. Ebola hemorrhagic fever: lessons from Kikwit, Democratic Republic of the Congo. *J Infect Dis.* 1999 Feb;179 Suppl 1: S283–6. PubMed PMID: 9988197.
 13. Leroy EM, Epelboin A, Mondonge V, Pourrut X, Gonzalez JP, Muyembe–Tamfum JJ, Formenty P. Human Ebola outbreak resulting from direct exposure to fruit bats in Luebo, Democratic Republic of Congo, 2007. *Vector Borne Zoonotic Dis.* 2009 Dec;9(6):723–8. doi: 10.1089/vbz.2008.0167. PubMed PMID: 19323614.
 14. Muyembe–Tamfum JJ, Nkwembe E, Bi Shamamba SK, Bankoshi F, Ilunga BK, Katz KA, Cohen AL, Kabamba J, Wemankoy EO. Sentinel surveillance for influenza–like illness, severe acute respiratory illness, and laboratory–confirmed influenza in Kinshasa, Democratic Republic of Congo, 2009–2011. *J Infect Dis.* 2012 Dec;206 Suppl 1:S36–40. doi: 10.1093/infdis/jis537. PubMed PMID: 23169969.
 15. Gumedde N, Jorba J, Deshpande J, Pallansch M, Yogolelo R, Muyembe–Tamfum JJ, Kew O, Venter M, Burns CC. Phylogeny of imported and reestablished wild polioviruses in the Democratic Republic of the Congo from 2006 to 2011. *J Infect Dis.* 2014 Nov 1;210 Suppl 1: S361–7. doi: 10.1093/infdis/jiu375. PubMed PMID: 25316856; PubMed Central PMCID: PMC4303083.
 16. McCollum AM, Nakazawa Y, Ndongala GM, Pukuta E, Karhemere S, Lushima RS, Ilunga BK, Kabamba J, Wilkins K, Gao J, Li Y, Emerson G, Damon IK, Carroll DS, Reynolds MG, Malekani J, Tamfum JJ. Human Monkeypox in the Kivus, a Conflict Region of the Democratic Republic of the Congo. *Am J Trop Med Hyg.* 2015 Oct;93(4):718–21. doi: 10.4269/ajtmh.15–0095. Epub 2015 Aug 17. PubMed PMID: 26283752; PubMed Central PMCID: PMC4596588.
 17. Rimoin AW, Lu K, Bramble MS, Steffen I, Doshi RH, Hoff NA, Mukadi P, Nicholson BP, Alfonso VH, Olinger G, Sinai C, Yamamoto LK, Ramirez CM, Okitolonda Wemakoy E, Kebela Ilunga B, Pettitt J, Logue J, Bennett RS, Jahrling P, Heymann DL, Piot P, Muyembe–Tamfum JJ, Hensley LE, Simmons G. Ebola Virus Neutralizing Antibodies Detectable in Survivors of the Yambuku, Zaire Outbreak 40 Years after Infection. *J Infect Dis.* 2018 Jan 4;217(2):223–231. doi: 10.1093/infdis/jix584. PubMed PMID: 29253164; PubMed Central PMCID: PMC5853670.
 18. Mulangu S, Alfonso VH, Hoff NA, Doshi RH, Mulembakani P, Kosalu NK, Okitolonda–Wemakoy E, Kebela BI, Marcus H, Shiloach J, Phue JN, Wright LL, Muyembe–Tamfum JJ, Sullivan NJ, Rimoin AW. Serologic Evidence of Ebolavirus Infection in a Population With No History of Outbreaks in the Democratic Republic of the Congo. *J Infect Dis.* 2018 Jan 30;217(4):529–537. doi: 10.1093/infdis/jix619. PubMed PMID: 29329455; PubMed Central PMCID: PMC5853806.
 19. Makiala–Mandanda S, Ahuka–Mundeke S, Abbate JL, Pukuta–Simbu E, Nsio–Mbeta J, Berthet N, Leroy EM, Becquart P, Muyembe–Tamfum JJ. Identification of Dengue and Chikungunya Cases Among Suspected Cases of Yellow Fever in the Democratic Republic of the Congo. *Vector Borne Zoonotic Dis.* 2018 Jul;18(7):364–370. doi: 10.1089/vbz.2017.2176. Epub 2018 May 16. PubMed PMID: 29768102.

20. Mbala-Kingebeni P, Villabona-Arenas CJ, Vidal N, Likofata J, Nsio-Mbeta J, Makiala-Mandanda S, Mukadi D, Mukadi P, Kumakamba C, Djokolo B, Ayouba A, Delaporte E, Peeters M, Muyembe-Tamfum JJ, Ahuka-Mundeke S. Rapid Confirmation of the Zaire Ebola Virus in the Outbreak of the Equateur Province in the Democratic Republic of Congo: Implications for Public Health Interventions. *Clin Infect Dis.* 2019 Jan 7;68(2):330–333. doi: 10.1093/cid/ciy527. PubMed PMID: 29961823; PubMed Central PMCID: PMC6321851.
21. Hoff NA, Mukadi P, Doshi RH, Bramble MS, Lu K, Gadoth A, Sinai C, Spencer D, Nicholson BP, Williams R, Mossoko M, Ilunga-Kebela B, Wasiswa J, Okitolonda-Wemakoy E, Alfonso VH, Steffen I, Muyembe-Tamfum JJ, Simmons G, Rimoin AW. Serologic Markers for Ebolavirus Among Healthcare Workers in the Democratic Republic of the Congo. *J Infect Dis.* 2019 Jan 29;219(4):517–525. doi: 10.1093/infdis/jiy499. PubMed PMID: 30239838; PubMed Central PMCID: PMC6350949.
22. De Nys HM, Kingebeni PM, Keita AK, Butel C, Thaurignac G, Villabona-Arenas CJ, Lemarcis T, Geraerts M, Vidal N, Esteban A, Bourgarel M, Roger F, Leendertz F, Diallo R, Ndimbo-Kumugo SP, Nsio-Mbeta J, Tagg N, Koivogui L, Toure A, Delaporte E, Ahuka-Mundeke S, Tamfum JM, Mpoudi-Ngole E, Ayouba A, Peeters M. Survey of Ebola Viruses in Frugivorous and Insectivorous Bats in Guinea, Cameroon, and the Democratic Republic of the Congo, 2015–2017. *Emerg Infect Dis.* 2018 Dec;24(12):2228–2240. doi: 10.3201/eid2412.180740. Epub 2018 Dec 17. PubMed PMID: 30307845; PubMed Central PMCID: PMC6256401.

フランシス・ジャーバス・オマスワ博士略歴

[生年月日]

1943年9月5日(ウガンダ共和国生まれ)

[学歴・職歴]

1969年	東アフリカ大学マケレレ校(ウガンダ)医学部にて学士号(医学)取得。
1970-1974年	ウガンダ保健省地区医務官／マケレレ大学修士課程
1974年	マケレレ大学(ウガンダ)にて修士号(外科)取得。
1974-1979年	英国国民保健サービス・心臓胸部外科登録官／上級登録官
1979-1982年	ケニア・ナイロビ大学ケニヤッタ国立病院心臓胸部外科部長
1983-1986年	「農村部における費用対効果の高い外科」プロジェクト・コーディネーター兼地域保健プログラム・ディレクター／ウガンダ・ンゴラ病院医療監督者
1987-1992年	ウガンダ心臓研究所所長、ウガンダ・マケレレ大学ムラゴ病院外科准教授
1992-1999年	ウガンダ保健省主任外科医兼品質保証プログラム責任者
1999-2005年	ウガンダ保健省保健局長
2005-2008年	世界保健機関事務局長特別顧問／世界保健人材連盟(GHWA)創設者兼事務局長
2008年-現在	グローバルヘルスと社会変革のためのアフリカセンター(ACHEST)事務局長兼創設者
2009-2017年	ウガンダ・ブシテマ大学学長

[主な受賞と栄誉]

2005年	東・中央・南部アフリカ外科大学大学(COSECESA)名誉研究員
2006年	ウガンダ保健省功労賞
2011年	ニューヨーク医学アカデミー会員
2012年	ウガンダ独立記念金メダル
2013年	Pauline Muhoho リーダーシップ賞(IntraHealth)
2014年	米国科学アカデミー会員に選出
2016年	英国王立外科医師会(アイルランド)名誉会員
2016年	ウガンダ国立科学アカデミー会員
2016年	WHO 表彰状(GHWA 及び保健人材に対する多大な貢献)

[主な論文]

1. Omaswa F, et al. The Medical Education Partnership Initiative (MEPI): Innovations and Lessons for Health Professions Training and Research in Africa. *Annals of Global Health* 2018; 84:160-169.
2. Omaswa F, Boufford J. Handbook for Health Ministers. Makerere University and The New York Academy of Medicine. New York, NY. 2011.

3. Omaswa F, Okware SI, Kiguli-Malwadde E. Strategies from the 2000–01 Ebola outbreak in Uganda. *The Lancet Global Health* 2015;3(S1): S29.
4. Omaswa F, Crisp N. *African Health Leaders; making change and claiming the future*. Oxford University Press; October 28, 2014.
5. Omaswa F. Human Resources for Global Health: time for action is now. *Lancet* 2008; 371: 625.
6. Omaswa F. The Community TB Care in Africa; *International Journal of Tuberculosis and Lung Disease* 2003;7: S1.
7. Omaswa F, Burnham G, Baingana G, Mwebesa H, Morrow R. Introducing quality management into primary health care services in Uganda. *Bulletin of the World Health Organization*. 1997;75(2):155–161.
8. R. Chad Swanson, Francis Omaswa et al; Strengthening health systems in low-income countries by enhancing organizational capacities and improving institutions Article in *Globalization and Health* · February 2015
9. Sheila Leatherman, Timothy G Ferris, Francis Omaswa, Donald Berwick and. Nigel Crisp “The role of quality improvement in strengthening health systems in developing countries” *International Journal for Quality in Health Care*. 22:237 (2010)
10. *Quality Assurance for Health Workers in Uganda; a Manual of Quality Improvement Methods*; Francis Omaswa, Gilbert Burnham, Henry Mwebesa, Gladys Baingana and Richard Morrow. Ministry of Health Uganda 1997.
11. Francis Omaswa and Jo Ivey Boufford; “Strong Ministries for Strong Health Systems” www.strongministries.org; January (2011)
12. Francis Omaswa; Reclaiming the ‘can do’ attitude in the delivery of health services in Africa; *Africa Health Journal* (<http://www.africa-health.com>), July 2010
13. Francis Omaswa; Regaining trust: an essential prerequisite for controlling the Ebola globalhealth.thelancet.com/.../regaining-trust-essential-prerequisite-controlling-ebola; Aug 11, 2014
14. Omaswa F, et al. The Medical Education Partnership Initiative (MEPI): Innovations and Lessons for Health Professions Training and Research in Africa. *Annals of Global Health*. 2018; 84(1), pp. 160–169. DOI: <https://doi.org/10.29024/aogh.8>
15. Omaswa Francis, . Elsie Kiguli-Malwadde, Peter Donkor, Marietjie de Villiers,. et al; Medical Education Partnership Initiative gives birth to AFREhealth *The Lancet Global Health*, Volume 5, Issue 10, e965 – e96